

農業女性グループ「萌の会」が試験販売を開始



農業女性グループ「萌の会」
代表 横山 優美子さん

地域の魅力をたっぷりと
干し野菜の商品化を目指す

農業女性グループ「萌の会」（以下萌の会）は、自分たちが栽培した野菜を減圧平衡発熱乾燥機で乾燥加工し、「るもい旬菜干し野菜」として商品化を目指すため、消費者のニーズを探る試験販売を開始しました。「萌の会」代表の横山優美子さんにお話を伺いました。

「萌の会」は、幌糠、樽真布、大和田で農業に携わる女性で構成し、現在6人で活動しています。地産地消をテーマに、風土工房こさえるがオープンした平成12年から豆腐や味噌などを作っています。

今回、干し野菜に着目したのは、平成24年に市が導入した減圧平衡発熱乾燥機を利用することで、野菜の味や色、栄養を損なわず、長期の保存にも耐えられることが確認できたからです。干し野菜の製造は、それぞれの

野菜に適した乾燥時間を、みんなと相談しながら割り出しました。また、干し野菜にすると生野菜よりも甘みが増し、発色が豊かになることが分かったことも大きな発見でした。

消費者のニーズの把握とPRを兼ねて、10月18日(土)に羽幌町で開かれた「農業まるごとふれあい広場2014」、26日(日)に札幌市のサッポロさとらんどで開かれた「農家・消費者交流会 in さとら



▲「炊き込みご飯セット」の試食を行う「萌の会」のメンバー

▲一つひとつ手作業で袋詰めされた「るもい旬菜干し野菜」

んど」で試験販売を行いました。サッポロさとらんどでは、ダイコンやナス、ゴーヤなど13種類を袋詰めした干し野菜に加え、かねてから考案していた南るもい産「ななつぼし」2合と5種類の干し野菜を一つにした「炊き込みご飯セット」の試食コーナーを設けたところ、評判も上々で商品化への道に大きな手応えを感じました。今季に収穫した野菜を使った製造は終了しましたが、メンバーは今回の試験販売で得た手応えを大切に、来季の正式販売に向けた挑戦をすでに始めています。

自ら生産した野菜を使い、地域の活性化に取り組む「萌の会」。6次産業の推進にも大きな力となるでしょう。試験的に販売した「るもい旬菜干し野菜」は、おみやげ処お勝手屋「萌」で購入できます。

お問い合わせは
問 農業女性グループ「萌の会」
42 5160

宙を舞う大きなボールを追いかけて心地よい汗を流す



NPO法人留萌体育協会
係長 伊藤 ともふみ 知史さん

話題のニユースポーツ
キンボール普及目指す

NPO法人留萌体育協会では、市や管内町村と連携を図り、新しいスポーツであるキンボールの普及と指導員や審判員の育成に取り組んでいます。大きなボールを追いかけて、チームワークと頭脳プレーが魅力のキンボール。普及を進める留萌体育協会係長の伊藤知史さんにお話を伺いました。

皆さんはキンボールというスポーツをご存知ですか？屋内で子どもから大人まで楽しめるキンボールは1986年にカナダで考案され、全国で愛好者が増えている話題のスポーツです。

ム製の大きな軽量のボールを使い、4人一組で構成されたチームがコート内でサーブやレシーブを繰り返して、レシーブに失敗するとほかのチームに得点が入ります。このスポーツの大きな特徴は3チーム12人が同時にプレイすること



▲大きなボールをレシーブするにはチームワークが必要



▲子どもたちも気軽にプレーできるキンボールに夢中

です。その楽しさはプレイを始めるとすぐに納得できるでしょう。大きなボールを声を掛け合い、床に落とさないようにするには、全員の協力が必要のため、一体感を味わうことができ、協調性を養うことができます。

10月18日(土)には、キンボールのルールと楽しさを知ってもらうため、留萌体育協会職員4人が講師となり、留萌管内のスポーツ指導者の方を対象に講習会を開催しました。

市スポーツセンターで、一人でも多くの方にこのスポーツの魅力を経験してもらおうと、週に1回日中にレッツキンボールクラブと小学生を対象にしたジュニアキンボールクラブ、月に1回夜間にキンボール体験会を開いています。

また、留萌体育協会ではキンボール大会を年に1回、全道のチームに参加を呼びかけ開催しています。

最近ではキンボール講習会の依頼も増え、普及の輪が広がっています。キンボールは体を動かす機会が減りがちな冬場にはもってこいのスポーツです。興味のある方は、ぜひ見学に来てください。

お問い合わせは
問 NPO法人留萌体育協会
42 2917